

1 学校教育目標

- 深く考え、自ら学ぶ人
 - 自他を尊重する心豊かな人
 - 心身ともにたくましい人
- 人権尊重を基調として、社会の変化に対応した知・徳・体の調和のとれた人間性の育成を目指して、全教育課程において、「夢・挑戦・自立」をキーワードとした教育活動を展開する

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	将来への夢や目標をもち、自立し社会に貢献できる人材を育む学校 ○ 一人一人を大切にし、互いの良さを認め合い、個の能力を伸ばせる学校 ○ 全ての学校活動を通して、心と体を磨き、豊かな人間性を育む学校 ○ 地域・保護者・学校が手を取り合い、同じ思いで生徒の育成を図る学校
○児童・生徒像	夢や目標をもち、自分で考え、判断・表現・行動し、課題解決できる生徒 ○ 目標に向かって、主体的に学び続ける生徒 ○ 礼儀や友情、思いやりを大切にし、自他を尊重する心豊かな生徒 ○ 自立に向け、何事にも積極的に取り組み、社会に貢献できる生徒
○教師像	主体的かつ的確な判断ができ、組織として迅速に動くことができる教職員 ○ 公務員としての自覚をもち、当事者意識をもって職務を实践する教職員 ○ 生徒の視点に立った「わかる」、「できる」、「楽しい」授業づくりのために、意欲的に研修や授業改善に取り組む教職員 ○ 豊かな人間性と熱意で、生徒の成長のために取り組むことのできる教職員

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

学校の現状

- ・授業中に発言する生徒が多く、全体として落ち着いた学校生活を送っている。生徒会が中心となり、学校生活の見直しやボランティア活動などの推進、新たな試みを積極的に行うなど、生徒による自治的活動が充実している。
- ・生徒の成長のためにひたむきに取り組む教職員が多い。全教職員が全生徒に関わる気持ちを持ち、熱意をもって職務を行っている。
- ・保護者や地域は、学校の教育活動や行事などの取組に協力的である。

前年度の成果

- ・生徒が主体的に学習に取り組む授業に向けた授業改善を継続した。放課後補充や家庭学習でのAIドリル活用が進んだ。
- ・生徒がよりよい学校生活について考え、学校のきまりの見直しや新たな生徒会による取組の実施など、主体的に活動することができた。
- ・1年職業体験や人権講演会、オリンピックアスリートによる講演など、夢や目標を大切にする気持ちを高める取組などを推進した。
- ・連携小学校との研修及び交流行事を計画通り実施できた。地域関係者に協力いただく教育活動を多く実施した。地域の学校としての自覚を深めた。

前年度の課題

- ・学習の定着に課題がある生徒の割合が多い。授業改善やICT機器の活用などが十分に区学力調査の結果に反映されていない。
- ・夢や目標をもつ生徒の割合が区の平均より低い。本校のキーワード「夢・挑戦・自立」の取組が生徒の意識向上に十分つながっていない。
- ・小中の交流充実、家庭との連携充実について、アンケートの目標を達成できなかった。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成と基本的生活習慣の確立	○	○	○		
3	連携小学校、地域、家庭との連携		○	○		

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上アクションプラン
-------------------	--------------

A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●
生徒の基礎学力を定着させ、学力を向上させる。	4月区学力調査 目標値通過率 50% 年度未定着度確認問題 平均正答率 47%		自己評価の際に記入	

B 目標実現に向けた取組み

新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全学年 全教科	通年	授業のねらいを明確にし、授業形態を工夫する。言語活動や話し合い活動を充実させ、生徒が意欲的に学習する授業を実践する。国語、数学、英語において、教科指導専門員による授業観察と指導・助言を通して、指導力向上を図る。	年間3回の授業観察・自己申告面接 生徒アンケート	生徒アンケート 授業が分かる 78% 授業の形態項目 82%			
							自己評価の際に記入		

2 継続	I C T 機 器 を 活 用 し た 授 業 改 善	全教科担 任 全教科	授 業 観 察 日 常 と 自 己 申 告 前 後	I C T 機 器 及 び G o o g l e ア プ リ ケ ー シ ョ ン や A I ド リ ル な ど を 効 果 的 、 効 率 的 に 活 用 し た 授 業 に つ い て 情 報 共 有 や 授 業 実 践 を 行 い 、 授 業 改 善 を 図 る 。	授 業 観 察 と 自 己 申 告 面 接 教 員 ・ 生 徒 ア ン ケ ー ト	教 員 ア ン ケ ー ト 平 均 週 1 回 以 上 活 用 生 徒 ア ン ケ ー ト 授 業 で I C T 機 器 が 活 用 8 5 %	自己評価の際に記入
3 継続	家 庭 学 習 の 習 慣 化	全 生 徒 5 教 科	毎 日	年 度 当 初 に 家 庭 学 習 の 方 法 を 指 導 す る 。 A I ド リ ル に よ る 学 習 を 推 奨 す る 。 連 絡 帳 に 家 庭 学 習 内 容 を 記 入 さ せ 、 毎 日 提 出 さ せ る 。 家 庭 学 習 が で き な い 日 が 続 く 場 合 は 、 昼 休 み や 放 課 後 に 学 習 を し て か ら 下 校 ・ 部 活 参 加 と す る 。	連 絡 帳 を 毎 日 提 出 担 任 が 確 認 を 行 う	連 絡 帳 提 出 率 9 0 % 生 徒 ア ン ケ ー ト 家 庭 学 習 毎 日 8 0 %	
4 継続・ 改善	放 課 後 補 充 教 室	全 学 年 指 導 を 要 す る 生 徒 数 英 の 2 科 中 心 時 期 に よ り 国 理 社	水 を 除 く 毎 日	教 科 担 当 を 中 心 に 全 校 体 制 で 行 う 。 各 種 調 査 結 果 か ら つ ま ず き 箇 所 を 個 別 に 演 習 す る 。 既 習 内 容 の 復 習 を し 、 基 礎 学 力 の 定 着 を 図 る 。 年 度 当 初 は 家 庭 学 習 の 指 導 を 行 う 。 定 期 考 査 前 は 質 問 教 室 を 行 う 。	計 画 的 実 施 の 確 認 年 度 末 確 認 問 題	生 徒 ア ン ケ ー ト 授 業 以 外 の 学 習 活 動 の 充 実 9 0 % 年 度 末 確 認 問 題 正 答 率 4 7 %	
5 継続	サ マ ー ス ク ー ル	国 語 ・ 社 会 ・ 数 学 理 科 ・ 英 語 の 学 力 定 着 度 の 低 い 生 徒	夏 季 休 業 日 7 日 間	夏 休 み 前 ま で の 学 習 内 容 に お け る 基 礎 的 ・ 基 本 的 な 力 を 定 着 さ せ る 。	前 期 期 末 考 査	中 間 考 査 よ り 点 数 が 上 昇 す る 生 徒 5 5 %	
6 継続	S T E P U P 検 定	全 生 徒 国 語 英 語	年 間 2 回	漢 字 、 英 単 語 に つ い て テ ス ト に 向 け た 取 組 を 実 施 し 、 学 習 意 欲 の 向 上 を 図 る 。	検 定 合 格 率	国 語 8 0 % 英 語 6 5 %	

重点的な取組事項－２		豊かな心の育成と基本的生活習慣の確立			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
生徒が主体的によりよい学校づくりに参画し、いじめのない、安心して通える学校を目指す。		生徒アンケート 「花畑北中の生徒でよかったと思う」 85% 「いじめ防止対策の充実」 85%	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重教育の推進	生徒アンケート「友達や他の人のよさを見つけ、大切にしている」 93%	道徳の授業をはじめ全教育活動で、思いやりの心や命を大切に作る心、規範意識、連帯感、自己肯定感を育む教育を推進する。 生徒会活動を充実させ、他者を大切に作る心を育む。	自己評価の際に記入		
キャリア教育の推進	生徒アンケート「夢や目標をもっている」63% 「進路指導の取組十分」 88%	職業教育や体験活動など、計画的にキャリア教育を推進する。 自治的活動の中で自分の役割を果たす経験を計画的に設定する。			
教育相談の充実	生徒アンケート 「悩みを相談しやすい」 80%	相談室、はばたきルーム、特別支援教室での支援体制を推進する。 学年の枠を超えた相談活動を実施する。 教育相談・特別支援教育に関する研修及び校内委員会を適宜開催する。			
「当たり前のできること」の質向上	生徒アンケート「ルールや挨拶などについて」 95%	挨拶、規律、言葉遣いなど、当たり前のことについて指導する。生徒がマナーなどについて考え、主体的に改善する活動を支援する。			

QU調査結果を活用した生徒の支援	WEBQU2回目の要支援群及割合の減少	調査後に、学年及び特別支援校内委員会で要支援群及び不満足群の分析及び対応の検討を行い、解決にあたる。	自己評価の際に記入		
------------------	---------------------	--	-----------	--	--

重点的な取組事項－3	連携小学校や家庭、地域や外部機関との連携				
-------------------	----------------------	--	--	--	--

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
関係機関などと連携した教育活動を充実させる。	関連項目のアンケート 肯定的回答の平均 78%	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み				
----------------------	--	--	--	--

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携研修 教員の交流	指導案検討、授業公開などの研修及び共通の教育課題研修を実施する。 授業満足度 85%	生徒が主体的に学習に取り組む授業の指導案検討、研究授業研究協議及び課題研修を行う。小中共通の生活目標などを検討する。	自己評価の際に記入		
生徒・児童の交流	小中の交流活動を実施する。 交流の充実 65%	小学校児童への学校説明会 授業及び部活動体験 夏季補充生徒丸付けボランティア 納涼祭による交流			
家庭との連携	学校生活への充実度や満足感 70%	学校だよりの計画的発行や学校ホームページの更新などによる情報提供 保護者会や三者面談などでの丁寧な対応			

<p>地域関係者との協働活動及び協力体制の構築</p>	<p>地域ボランティアに多くの生徒が参加する。地域との連携活動実施ボランティアの充実 80%</p>	<p>地域運動会 花の苗植え活動 納涼祭 住区祭り 避難所訓練（中学生消防隊） 酉の市巡回（教員） 餅つき 納涼祭運営</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>自己評価の際に記入</p> </div>
<p>地域や外部人材を活用した教育活動</p>	<p>外部人材を活用した教育活動の充実 80%</p>	<p>職場体験 職業体験 高校の先生の話聞く会 進路説明会 マナー講座 面接練習</p>	

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。